

# 秋の三者総会 議案書

2003年度 三者事務局

2003年7月9日

## 目次

<b>1</b>	<b>2002年度夏の学校決算見積もり</b>	<b>1</b>
1.0.1	収入予定	1
1.0.2	支出予定	1
<b>2</b>	<b>2002年度三者準備校(名古屋大学)</b>	<b>5</b>
2.1	決算報告(暫定)	5
<b>3</b>	<b>2002年度三者名簿校(千葉大学)</b>	<b>7</b>
3.1	決算	8
<b>4</b>	<b>セクハラ対策WG</b>	<b>8</b>
4.1	活動報告	8
4.2	会計報告	8
4.3	セクハラ対策会議	9
4.4	茶話会	9
4.5	アンケート集計結果	11
<b>5</b>	<b>2003年度夏の学校予算案[三者センター校]</b>	<b>12</b>
5.1	収入予定	13
5.2	三者若手全体の支出予定	13
5.3	三者役職校の予算案	13
5.4	パート役職校の予算案	14
5.5	WGの予算案	15
<b>6</b>	<b>2003年度夏の学校開催地/開催期間について</b>	<b>15</b>
6.1	提案	15
6.2	提案についての説明	16
6.3	補足事項	17

7	役職校の引き継ぎを早めることの申し合わせ	17
7.1	提案	17
7.2	提案理由	17
7.3	今後の動きについて	18

# 1 2002年度夏の学校決算見積もり

文責: 東 武大(2002年度三者センター校 京都大学)

以下は、2002年度夏の学校の決算見積もり(9月2日現在)に関する報告である。現時点で既に確定している項目は以下のとおりである。

- 三者準備校以外の全ての役職校、及びWGの支出
- 講師旅費
- ポスター製作費

しかしながら、旅費補助の支給がまだ完了していないため、現時点では**旅費補助の最終的な金額**、及びそれに関係して**三者準備校の支出**は完全には確定をしていない(未確定の項目は、〈 〉で表わす)。よって、この報告はあくまで暫定的なものであり、最終報告は後日に譲ることとしたい。

## 1.0.1 収入予定

	今年度収入
前年度繰越金	2,710,003
基研(旅費)	0
基研(印刷費)	48,300
素G	0
〈夏の学校費用 <sup>1</sup> 〉	826,000
〈合計〉	3,584,303

1. このうち、参加費は3,000円 × 272人 = 816,000円である。それ以外の内訳は、2002年度三者準備校の報告参照。

## 1.0.2 支出予定

	今年度決算
〈三者役職校〉	266,707
パート	36,581
WG	8,839
講師旅費	108,510
ポスター印刷費	48,300
〈学生旅費補助〉	1,667,140
〈次年度繰越金〉	1,448,226
〈合計〉	3,584,303

- 三者名簿校は、夏の学校とは独立会計で運営を行なっているため、ここでは含めていない。

### 三者役職校の支出

- 三者センター校:

申請項目	今年度申請額	今年度決算
振込手数料	1,000	<b>1,680</b>
録音関係費	500	<b>0</b>
文具代	1,000	<b>0</b>
郵送費	1,000	<b>0</b>
合計	3,500	<b>1,680</b>

- － 講師旅費に関する予算は、センター校の会計としては含めていない。また、講師の方に対する振込み手数料も、範疇には入れていない。
- － 役職校の担当者の方に経費を振り込む際に、銀行に口座を持っている方が多かったことから、振込み手数料が当初の予定を上回った。

- 〈三者準備校〉:

申請項目	今年度申請額	今年度決算
下見・契約代	20,000	<b>17,340</b>
〈 郵送料〉	35,000	<b>24,470</b>
コピー代	60,000	<b>113,196</b>
文具代	10,000	<b>12,011</b>
リース代	78,000	<b>68,000</b>
〈 払出し手数料〉	30,000	<b>26,210</b>
〈 合計〉	233,000	<b>261,227</b>

- 三者事務局:

申請項目	今年度申請額	今年度決算
コピー代	4,000	<b>3,800</b>
切手代	500	<b>0</b>
振込手数料	500	<b>0</b>
合計	5,000	<b>3,800</b>

- 三者 ML・HP 校: 予算申請なし

申請項目	今年度申請額	今年度決算
合計	0	<b>0</b>

## 各パートの支出

- 素粒子パート事務局:

申請項目	今年度申請額	今年度決算
通信費及び印刷費	1,000	0
合計	1,000	0

- 素粒子パート準備校:

項目	予算	内訳	決算
録音関係費		ビデオテープ (T-120HGK) × 12 本	3,066
		8 ミリビデオテープ (3P6-120MP) × 12 本	3,108
		オーディオカセットテープ × 15 本 (AE-120X3F、他)	2,132
(小計)	10,000		<b>8,306</b>
通信関係費		ビデオテープ送料 (2 校分)	1,650
		領収書郵送料	90
		振り込み手数料	120
(小計)	2,000		<b>1,860</b>
ビデオカメラレンタル料		ビデオカメラレンタル	12,600
		三脚レンタル	3,780
(小計)	24,000		<b>16,380</b>
消耗品代		録音機器用電池 1	416
		録音機器用電池 2	312
		ポインタ	420
		チョーク	105
(小計)	2,000		<b>1,253</b>
研究会費		テープ (文具) × 5 本	1,065
		白模造紙 × 40 枚	1,680
(小計)	5,000		<b>2,745</b>
合計	43,000		<b>30,544</b>

- 原子核パートセンター校: 予算申請なし

申請項目	今年度申請額	今年度決算
合計	0	0

- 原子核パート準備校:

申請項目	今年度申請額	今年度決算
文具代	3,000	<b>1,428</b>
コピー代	5,000	<b>4,000</b>
合計	8,000	<b>5,428</b>

- 高エネルギーパート準備校:

申請項目	今年度申請額	今年度決算
トラペ郵送費	10,000	<b>0</b>
文具代	0	<b>609</b>
合計	10,000	<b>609</b>

## WGの支出

- WG 掲示板:

申請項目	今年度申請額	今年度決算
掲示板レンタル料	6,400	<b>6,400</b>
振込み手数料	0	<b>315</b>
合計	6,400	<b>6,715</b>

- セクハラ対策 WG:

申請項目	今年度申請額	今年度決算
相談箱製作費	—	<b>714</b>
茶話会代	—	<b>1,410</b>
合計	—	<b>2,124</b>

## 講師旅費

内訳	今年度決算
講師旅費(3名分)	<b>107,460</b>
振込み手数料	<b>1,050</b>
合計	<b>108,510</b>

- 2002年度夏の学校では、基研からの講師旅費の援助を辞退しているため、三者センター校が直接講師の方に旅費を支払う形をとっている。

- 上記の金額を計算するに当たっては、例年と同じく**基礎物理学研究所の算定基準<sup>1</sup>**を準用した。また、実際の旅費の計算に際しては、基研の事務の方々にご尽力頂いた。
- 2002年度は、原子核パートの Topics 講師及び Review Talker については、パートごとの講師及び夏の学校特別講演の講師と同じく、基研の算定基準に基づいて旅費補助を計算している。また、これらの予算は原子核パート準備校の支出の範疇には加えていない。
- 学生旅費補助の充実のため、講師の方々になるべくご自身の科研費などで出張手続をして頂けるように交渉をしたところ、9名の講師の方が快諾して下さいました。

### ポスター製作費

内訳	今年度決算
ポスター製作費	48,300
合計	48,300

## 2 2002年度三者準備校(名古屋大学)

文責：倉知昌史、三島智

### 2.1 決算報告(暫定)

#### 1. 準備校活動費

収入

項目	予算	決算
センター校より	230,000	230,000
計	230,000	230,000

- これとは別に、ホテルの前金としてセンター校より100,000円借りたが、すでに返却している。

支出

<sup>1</sup>この旅費規程の詳細に関しては、第118回部員会議議事録に記載されている。

項目	予算	決算
下見・契約代	20,000	17,340
郵送料	35,000	24,470
コピー代	60,000	113,196
文具代	10,000	12,011
リース代	78,000	68,000
払い出し手数料	30,000	26,210
計	233,000	261,227

- コピー代が予算をかなり上回っているのは、三者準備校以外の各役職校、および WG が作成したアンケートや注意事項、張り紙等のコピーを引き受けたためである。
- OHP に故障があったため、リース代が値引きされた。
- この決算は、9月1日時点での暫定的なものであり、今後、来年度三者準備校への引き継ぎにともなう支出（おもに郵送料）が予想される。

$$\text{収入} - \text{支出} = 233,000 - 261,227 = - 28,227 \text{ 円}$$

これは予算からの赤字であり、赤字分は三者センター校に事後申請する。

## 2. ポスター製作費

収入

項目	予算	決算
基研より	100,000	100,000
計	100,000	100,000

支出

項目	予算	決算
ポスター製作費	100,000	48,300
基研に返却	0	51,700
計	100,000	100,000

## 3. 夏の学校費用

収入 …………… 7,771,380 円

これは参加申し込み者から三者準備校に支払われた総額である。（実際にはまだ振り込みを済ませていない人もいるので、これは予定金額である。）こ



の中には、宿泊費、食費、懇親会参加費（一人 700 円）および夏の学校参加費（一人 3,000 円）が含まれている。夏の学校参加費の総額は、3,000 円 × 272 人 = 816,000 円となった。

#### 支出

項目	決算
ホテルへの支払い（懇親会費を除く）	6,566,175
ホテルへの支払い（懇親会費）	52,500
懇親会参加者への返金 <sup>(注)</sup>	45,300
過剰振り込み分の返金	300
夏の学校前のキャンセル分の返金	84,755
夏の学校開催中のキャンセル分の返金	196,350
計	6,945,380

(注) 申し込み時には懇親会参加費を 700 円としていたが、実際にかかる金額は予想よりずいぶん少ないことが分かったので、会場にて 300 円ずつ返金した。なお、費用が予想より安くなった原因は、酒類を用意しなかったことによる部分が大きい。

また、返金にかかる費用は 45,000 円のはずであったが、実際には 45,300 円支払われている。返金のさいにミスがあったと考えられる。

$$\text{収入} - \text{支出} = 7,771,380 - 6,945,380 = 826,000 \text{ 円}$$

これは学生旅費補助にまわされる。

#### 4. 学生旅費補助

今年度の学生への旅費補助は、前項で示した夏の学校費用からの 826,000 円と、センター校が管理している三者若手の繰越金から支給される 841,140 円を合計した **1,667,140 円** を該当者に分配する。算出方法の詳細については、夏の学校 HP <http://www.eken.phys.nagoya-u.ac.jp/sansha/> に掲載。

### 3 2002 年度 三者名簿校 (千葉大学)

文責：手塚 謙一 (千葉大学)  
tezuka@quark.s.chiba-u.ac.jp

### 3.1 決算

名簿校は独立会計になっており、三者センター校より予算を得ておらず、費用はすべて独自に、名簿購入者より得ています。

	項目	金額	備考
収入	名簿代金	238,500	450 円/冊 × 530 冊
	郵送料金	50,770	
	その他	290	
	01 年度繰越金	77,886	
支出	名簿印刷費	289,000	540 冊
	郵送料金	34,410	
	収入 - 支出	44,036	

- 以上の他に払込み手数料 120 円と振替料金 15 円がかかる予定です。
- 収入の内、その他は余分に支払をした人がいるためのものです。
- 10 冊余りました。

## 4 セクハラ対策 WG

### 4.1 活動報告

- セクハラ対策 WG メンバーの募集
- 準備校側との交渉 (相談室の確保、フロアの男女別など)
- 相談箱、「注意メモ」、張り紙の製作
- 開校式での注意喚起
- 役職校 (準備校、センター校) 代表者との対策会議
- 茶話会の実施、次年度の WG メンバーの募集

### 4.2 会計報告

収入

項目	予算	決算
活動資金(茶話会)	2,000	2,123
合計	2,000	2,123

支出

項目	決算
相談箱制作費	714
茶話会	1,409

### 4.3 セクハラ対策会議

今年度はセクハラ対策WGのメンバーが少数だったため、夏の学校初日にWGと役職校の代表者が集まり対策会議を行った。その時に話し合った概要は以下の通りである。

1. 被害報告、相談(事後)があった場合  
必ず複数の相談員が相談にあたる。相談員が足りないときは役職校の中から選出する。
  - 被害者に警察通報の意思がある場合  
警察への通報は被害者の意思次第だが、通報はWGが仲立ちとなって行うこととした。
2. (深夜など)本部に直接通報があった場合  
とにかく現場を押え、その場にいた人全員から事情聴取する。
3. 加害者が特定された場合  
準備校立会いのもと加害者(と思われる人)から事情聴取。加害者からも事情を聞いた上で措置を取る。
4. 加害者が特定されない場合(又は不特定多数)  
(臨時)総会などで全体に注意喚起するに止まり、加害者を探さないことにした。

### 4.4 茶話会

今年度の茶話会は高エネルギーパート参加者の日程の都合もあり、8月4日(日)に開催した。参加者はM1が十余名ほどで、全体として三十名ほどが集まった。その時に話し合ったこと、意見などは以下の通りである。

### 1. 全体としての様子

はめを外しすぎて問題を起こすような雰囲気ではなかったようだ。また(そのような雰囲気は)懇親会で酒を用意しないことが要因では、という意見も。また6Fは男性は近づきにくかったみたいだ。男性の部屋で女性が酒を飲んでいても特に問題は起きなかった。

### 2. 「注意メモ」や張り紙の効果、相談室の存在について

張り紙は結構目についていた。相談室の存在もセクハラ抑制には一役買っているみたいだ。「注意メモ」については男性用と女性用に分けたためか、一部の男性から不満の声があった。(男性ばかりに注意しすぎと取られたらしい。) 来年以降は(もし配るのであれば)男女統一したほうがよい。

### 3. その他の意見

- セクハラ被害者の意思表示がないと周り(特に男性)もどう対処してよいか分からない。
- 逆に受け手が何とも思っていないのに、周りからセクハラだと言われると不快に感じることもある。(特に酒の席では場が冷めてしまう。)
- セクハラをネタにしてふざけていると、セクハラの深刻さが隠れてしまう。
- 相手からされて嫌だと思ふことは控えて欲しい。(女性から男性へのセクハラ)

### 4. 次年度のWGメンバーの募集

今年度は正式なWGメンバーは一人しかいなかったのが次年度のWGメンバーの募集を兼ねて、メンバーが集まらなかった時のことについても話し合った。

- メンバーは有志か持ち回り(役職)か?  
有志が集まらなかった場合は役職校に任せるしかないが、できる限り有志で行うのが望ましい。というのも、いやいややってもらうと被害者も相談しにくいから。しかし今年度のこともあるので毎年有志を募るのは難しいであろう。
- 名称変更  
「セクハラ対策WG」という名称は近寄りがたい感じがするので名称を変えたほうがよいとの意見があった。確かにセクハラという言葉が入ると男性のメンバーはなかなか集まらないかもしれない。
- そもそもこのWGは必要なのか?  
ここ2年間、大きな問題が起こっていないので皆の意識が低下しているようだ。しかし記憶が完全に薄れた頃にまた問題が起こるといけないの

で、しばらくは続けて行こうということになった。少なくとも次年度の代表者は決定している。(ただし活動方針はまだ決定していない。)

## 4.5 アンケート 集計結果

解答数 170 人(27 人) ()内は女性

### 1. “セクハラ対策相談窓口”について

(a) 窓口は利用しやうそうでしたか？

利用そやすそうだった。 67 人(20 人)

利用しにくそうだった。 34 人(6 人)

その他、無回答 69 人(1 人)

(b) 窓口は今後も必要だと思いますか？

必要だと思う。 132 人(22 人)

必要だとは思わない。 18 人(3 人)

その他、無回答 20 人(2 人)

(c) 相談窓口を担当するのは誰がいいと思いますか？(複数解答有り)

役職校 40 人(8 人)

女子大の持ち回り 35 人(0 人)

有志 89 人(19 人)

その他、無回答 12 人(3 人)

(d) あなたは来年、相談窓口を担当してもいいと思いますか？

はい 13 人(2 人)

いいえ 93 人(7 人)

その他、未定 64 人(18 人)

### 2. “注意メモ”について

注意メモを読んでどう思いましたか？

効果があった。 112 人(21 人)

効果はなかった。 14 人(0 人)

その他、無回答 44 人(6 人)

その他、対策への意見や感想

1(a).

部屋の近くにあった。(女性)

男子禁制区域の近くなので近寄れなかった。(男性)

1(b).

活動内容が分からない、不透明(男性数名)

窓口の存在が抑制効果を発揮する。(女性)

個々人の良識に任せればいけない。(男性)

1(c).

本部(準備校)に組み込むべき。(男性数名)

役職からは切り離すべき。(女性)

茶話会で有志を募ればよい。(男性)

軽めの役職や引継ぎのために来ている人の中から有志を募る。(女性)

被害者は女性が圧倒的に多いので(女子大などの)女性が担当すべき。(男性数名)

2.

細かいことまで書きすぎ、返って逆効果。(男女数名)

読んでいない。(男性数名)

心構えができる。(女性)

過去に起こった不祥事について知った。(男性)

男女統一した方がよい。(男性数名)

意識は高まった。(男性数名)

3.

男女を別フロアにしたのは効果的。(女性)

(男子禁制など)男女差別が目立った。(男性)

制限が厳しすぎた。(男性数名)

いわゆる逆セクハラが心配。(男性)

張り紙が効果的(男女数名)

張り紙はやりすぎ、恥ずかしい。(男性数名)

受け付けの口頭注意を続けるべき。(男性)

禁酒すべき。(男性)

## 5 2003年度夏の学校予算案[三者センター校]

文責：片桐奏羽(筑波大学)

## 5.1 収入予定

内訳	収入予定
基研（旅費）	500,000
基研（印刷費）	100,000
素G	500,000
参加費	900,000
合計	2,000,000

## 5.2 三者若手全体の支出予定

役職校	今年度予算案
三者センター校	31,100
三者準備校	322,000
三者事務局	1,000
三者ML・HP校	0
素粒子パート事務局	0
素粒子パート準備校	28,200
原子核パートセンター校	0
原子核パート準備校	9,000
高エネルギーパート準備校	5,000
WG 掲示板	6,715
セクハラ対策WG	2,000
運営WG	0
合計	405,015

## 5.3 三者役職校の予算案

- 三者センター校

内訳	今年度予算案
振り込み手数料	1,700
旅費	29,400
合計	31,100

- 三者準備校

内訳	今年度予算案
下見・契約代	15,000
会場等のリース代	180,000
コピー代	60,000
文具代	15,000
郵送料	22,000
払出し手数料	30,000
合計	322,000

- 三者事務局

内訳	今年度予算案
切手代	500
振り込み手数料	500
合計	1,000

- 三者 ML・HP 校

今年度は申請せず。

#### 5.4 パート 役職校の予算案

- 素粒子パート事務局

今年度は申請せず。

- 素粒子パート準備校

内訳	今年度予算案
録音関係費	22,500
通信関係費	1,900
消耗品代	800
研究会費	3,000
合計	28,200

- 原子核パートセンター校

今年度は申請せず。

- 原子核パート準備校



内訳	今年度予算案
文具代	3,000
コピー代	5,000
トラペの郵送代	1,000
合計	9,000

- 高エネルギーパート準備校

内訳	今年度予算案
文具代	5,000
合計	5,000

## 5.5 WGの予算案

- WG 掲示板

内訳	今年度予算案
掲示板レンタル料	6,400
振り込み手数料	315
合計	6,715

- セクハラ対策 WG

内訳	今年度予算案
お菓子・お茶代	2,000
合計	2,000

- 運営 WG

今年度は申請せず。

## 6 2003年度夏の学校開催地／開催期間について

### 6.1 提案

2003年度の夏の学校について、以下のような提案をする

- 開催地：国際オリンピック記念センター（東京・代々木）
- 日程：2003年8月18日から23日まで

## 6.2 提案についての説明

2003年度三者準備校では、夏の学校により参加し易くするために、より交通の便の良い場所で開催することを計画していた。さらに、今年度のアンケート結果次第で、夏の学校の開催期間の短縮も検討することになっていた。

2003年度の開催候補地としては東京・代々木の国際オリンピック記念センターが上がっている。これは、交通の便、宿泊費用、セミナーホールなどの施設の充実度等を総合的に評価した結果である。また、アンケート結果によると開催期間の短縮に好意的な結果となっていた（詳細な数字については現在2002年度準備校の方で集計中）この結果を踏まえ、2003年度の夏の学校は例年よりも開催期間を短縮して行ないたいと思う。ただし、講義や研究会の数を減らすことは避け、実質行なわれていなかったM大連総会の削除、開校式と懇親会を同時に行なうなどの方法で例年より1日短縮し5泊6日（高エネルギーパートは例年通りの4泊5日）で行なうことにした。

しかし、三者若手のシステムの都合上初動が遅れ、2002年度と同じ開催期間（8月1日～8月7日）でオリンピック記念センターを予約することができなかった。また、その他の候補地も当たって見たが、この時期での予約はすでに埋まっている、もしくは会場設備の問題で開催地としては適さないということがわかった。

これらの理由から、準備校は、内外との協議の結果、暫定的に以下のような処置をとっている。

- 2003年度に限り夏の学校の開催時期を変更し、8月18日～8月23日（高エネルギーパートは22日まで）とする
- 上記の日程で、国際オリンピック記念センターを予約する

現在は国際オリンピック記念センターに予約申請中である（8月20日現在）。（総会までには予約の可否が判明すると思われる）

当然、この処置は暫定的に行なわれているものであり、最終決定ではない。しかしながら、現状では、より交通の便のいい場所、より設備・環境の整っている場所での夏の学校開催を考えると、準備校としては2003年度については最良の方法だと考えている。他の各役職校にかかる負担や、参加者に及ぼす影響等を考えると、少なからず問題はあると思うが、準備校としては可能な限りこの予定で進めていきたいと考えている。

そこで、今回の総会で2003年度に限定して開催時期の変更を行ない、上記の開催地・日程で夏の学校を開催することについての可否を審議していただきたい。

なお、開催時期の変更が不可能となった場合、会場は今年と同じ木島平パノラマランドとなる。この場合は今年と同じ時期での開催となる。

## 6.3 補足事項

2003年度の夏の学校が今回の提案通りに決定した場合、2003年度の役職校、特にセンター校および三者準備校は夏の学校よりも早い時期に引き継ぎを行なう必要がある。(センター校は援助申請などの都合上、三者準備校は次年度の開催地確保のため)2003年度および2004年度の役職校は夏の学校開催前に引き継ぎができるように準備をしていただきたい。

## 7 役職校の引き継ぎを早めることの申し合わせ

### 7.1 提案

役職校の引き継ぎ時期について、以下のような提案をする。

各役職校の仕事の引き継ぎを現在の1年前の夏の学校で行なうのを変更し、より早い段階で引き継ぎを行なう。

なお、これは2003年度の夏の学校の開催時期変更の如何に関わらず、今後継続的に続けていくものである。

### 7.2 提案理由

今回準備校が開催地を探している際に引き継ぎは早めに行なっておくべきだということを痛感したからである。

具体的には

- 2003年度の開催地を探している時に、どのくらいの規模の部屋が実質必要なのかなどという資料が乏しかった
- 大抵の施設の予約は1年前から行なわれるのだが、夏の学校で引き継ぎを行なっていると次年度の予約をしようとした時にはすでに予約でいっぱいになっている

ということがあった。準備校の仕事では夏の学校終了後でなくては実際に引き継ぎできないことも多いと思われるが、このようにより早い時期に引き継ぎを済ませておかないと支障が出てくる部分もある。

これは三者準備校に限ったことではなく、早めに引き継ぎなどを済ませ、事前に対処しておくことでその後の動きがやり易くなるというものは少なからずあると思われる。

多くの役職校は、当番となる年度の2年ないし3年前にすでに決定されている。にも関わらず、1年前の夏の学校が終るまで実質的な動きが全くできないというのは非効率的であるといわざるを得ない。

そこで、1年前の夏の学校よりも前の時点である程度の引き継ぎを行なっておくべきであると考えます。

### 7.3 今後の動きについて

2003年度準備校としては2004年度準備校への引き継ぎを早い段階で行なう予定である。この具体的な日程や、事前に引き継ぐべき内容等は今後2004年度準備校と協議して決めていきたいと考えている。

その他の役職校について、具体的にどの時期にどのような形での引き継ぎを行なうかは今後の議論に任せるが、“春の学会で行なう”、“メールやFAXなどでデータの交換をする”という方法が考えられると思う。

少なくとも今回の総会で、早めに準備しておくことがその後の三者若手会の運営を潤滑に行なう最良の方法であるという認識を持っておきたい。そして今後、早期引き継ぎに対応できるように、各役職校は代表者を春の総会までに決めておく、夏の学校開催前に引き継ぐべきことのリストアップ・資料整理などを進めるなどの処置をしておくように申し合わせたい。